

「現地を訪聞して思うこと」

近崎 奈保子

私にとって今回初めての「福島」でした。

震災当時と違い、情報は少なくなってきましたが、「福島」の状況については新聞やテレビの報道で今も時折、確実に私たちの住む地域へも流れてきています。

しかし、今回「福島」を実際に訪問してみて今まで自分が思っていた「福島」と現実の「福島」はなんだか違っていました。

確かに国道6号線から見る「福島」の様子はあちらこちらに除染された土などを入れた黒い袋がかたまっただけで積まれていたり、海岸近くでは津波で流されたために土台しか残っていない家の跡が広大に広がっていたり、見るからに立派な家が建っているものの、窓から見える中の様子はまさに地震の後そのままだったりして、4年たっても当時の津波や地震の恐ろしさを感じさせるものが多くありました。

また原発の影響を受けて居住制限区域では封鎖されている道路があちこちに見られました。

まさにテレビなどで見られる「福島」の現状というものでした。

しかし、「福島」の第一歩となった郡山駅周辺の都市化のありさまや「ホテルハワイアンズ」や「いわき・ら・ら・ミュウ」の賑わいと活気は全く震災があったという事実を感じさせるものではありませんでした。

また「アクアマリンふくしま」の設備と展示内容とコンセプトには感銘さえ受けました。

ですが「ホテルハワイアンズ」や「アクアマリンふくしま」の職員の方たちに震災当時のお話を伺ったとき、初めて震災の被害のすさまじさを感じ、と同時にその後の職員の方たちや地域の方たちの復興に向けての並々ならぬ信念とパワーに胸を打たれました。

つくづく「福島」の方たちは“強い！”と思いました。

また「あかい菜園」ではとても先進的な技術でトマト栽培をされていて、農業というイメージが覆されました。

しかも若い経営者でこれからの会社の発展が楽しみです。

そこで思ったのですが、福島は確かに震災や原発で多くの犠牲を払ったところだけけれど、自分たちの地域や産業や文化をもう一度復興していこう！という志を侍った人たちが多く、それがまとまった大きな力になっているのですね。

ですからその人たちが復興を達成できるように応援したいと思っている人たちは、福島の現状を知って、伝えて、福島の産業に貢献できる場所は協力していくことが大事なのでしょう。

今回、福島放送局にお勤めの校友からの震災関連のDVDを移動のバスの中で見させていただいて、福島の校友の方たちから温かいもてなしをしていただいて本当にありがとうございました。

ネット販売は「福島商店」、本は「はじめての福島学」(開沼 搏 著)お酒は「穏やか」、とても参考になりました。それとこのような企画をしてくださった校友会スタッフの方々に心から感謝申し上げます。